

『世界農業ドリームプラン・プレゼンテーション 2013』開催レポート

2013年10月24日(木)、東京ビッグサイト レセプションホールにて、『世界農業ドリームプラン・プレゼンテーション 2013』(以下、世界農業ドリプラ)が開催されました。

— 農と生きる私たちの夢で すべての『生命』が輝く！ —

「たった2人の農業者が抱いた夢が、多くの仲間に応援してもらい、実現しました！」
開催の挨拶に立った世界農業ドリームプラン・プレゼンテーション実行委員長・星野高章の言葉の通り、星野と統括責任者・遠藤健二の夢がひとつ叶った瞬間でした。



2人が抱いた危機感ともいえる想い。

それは、日本の農業には夢がある。しかし、語っていなかった、語る場がなかったということ。農業者自らが夢を語り、それを実現させていくため、農と農業に関わるすべての人々が一致団結して業界を盛り上げていくきっかけを作りたい！

その想いに共感し、20組のプレゼンター、パートナー、支援者、スタッフが心をひとつにして取り組み、多くの観覧者の皆さまの感動をよびました。

2013年4月にプレゼンターエントリー説明会、スタッフ説明会を開催し、6月、書類選考により20組のプレゼンターを決定しました。

7月のキックオフ合宿研修会を皮切りに、20組のプレゼンター、パートナー、支援者、そしてプレゼンターの夢を応援するドリームメンター、実行委員スタッフが、この日のために準備をし、10分

間の「感動と共感のプレゼンテーション」とアクションプラン(事業計画書)の作成に取り組んできました。

また、各回の「相互支援研修会」と呼ばれるブラッシュアップの場では、ドリプラの三大テーマである「自立・創造」「感動・共感」「相互支援」に基づいた研修プログラムを展開。

「夢(ドリーム)プラン・プレゼンテーション世界大会」の歴代プレゼンターもゲストとして参加し、プレゼンテーションや経験談を披露。興味を持っていただいた協賛企業のご担当者、農林水産省職員の方々もゲストとしてご参加いただきました。

セミ・ファイナルステージ(10月23日/日比谷図書文化館コンベンションホール)は満席で、20組のプレゼンテーションを200名の方々が観覧されました。すべてのプレゼンテーション終了後、審査員による選考が行われ、ファイナルステージ進出の8組が発表されました。

ファイナルステージ(10月24日/東京ビッグサイト レセプションホール)には約800名の観覧者の皆さまと共に、オープニングゲストとして、能楽囃子大倉流大鼓 重要無形文化財総合認定保持者 大倉正之助氏によるパフォーマンス、ドリームプラン・プレゼンテーションの生みの親である株式会社アントレプレナーセンター代表取締役 福島正伸氏による基調講演、来賓として安倍昭恵 内閣総理大臣令夫人が駆けつけ、これからの日本農業に期待を寄せたメッセージを贈られました。



大賞には、感動大賞に「乳と蜜の流れる地プロジェクト」上野 裕(うえの ゆたか)さん、共感大賞に「SEFA—スモール・エクセレント・ファーマーズ・アライアンス」水木 たける(みずき たける)さんが選ばれました。



来年 2014 年秋、第 2 回世界農業ドリームプラン・プレゼンテーションの開催を予定しています。